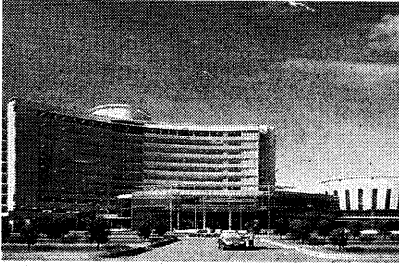


ベトナム中部で建設中のがん専門病院を支援するプロジェクトが日本で進んでいる。不要になった注射器やメスなどの医療機器を贈るほか、医師の育成にも協力。日本のがん治療技術は世界トップレベルとされ、プロジェクトを計画する財団法人の関係者は「医療レベル向上に役立ちたい」としている。

がん治療向上へ ベトナムを支援



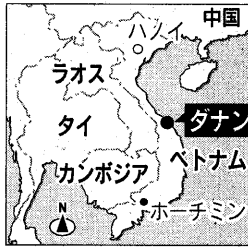
ダナンで建設が進むがん専門病院の完成予想図

日本の交流協会が計画

首都ハノイから南に約600キロ。ダナン市で2009年春、がん専門病院の建設が始まった。敷地約15ヘクタール、入院ベッド数500床の大型病院で、12年3月に開業する予定だ。

ベトナムでも日本と同様に高齢化などの影響でがん患者が増加し、社会問題化している。しかしベトナム中部にはこれまで

機器寄付や人材育成



でがん専門病院がなく、患者はハノイや南部のホーチミンまで足を延ばさなくてはならなかった。専門病院は地元の期待

に比べて建設されたが、設備や医師の確保まで手が回っていない。そこで同市が09年3月、財団法人「日本・ベトナム文化交流協会」（東京・中央）に協力を要請した。

同交流会の呼び掛けに応じる形で、廃棄した山梨県内の医療機器卸会社が在庫の寄付を申し出た。未使用のメスや医療用はさみ、注射器など数

千点（800万〜900万円相当）に上る。今後寄付などがあれば贈る計画だ。

人材育成についても協力する。同協会が年内にもダナンの医師を日本に招請。国立がんセンター（東京・中央）などの専門病院で先端の治療法などを学んでもらう。同協会の筒井豊春理事

長は「日本とベトナムは奈良時代から交流があり歴史的につながりが深い。医療や文化など様々な面で支え合うことが大切」としている。